

イベント学会「ソーシャルイベント研究会」設立趣旨 & 参加のご案内

○イベントはだれでも企画制作でき参加できる日常的な存在になりました

むかし 東京オリンピックや大阪万博に代表されるように イベントは国や自治体が主導する大規模な事業として 最先端の知恵と巨大な専門技術を集結し多額の資金を投入して開催される非日常的な存在でした。

半世紀後のいま イベントは個人の楽しみや自己実現の場として、企業や団体の経済活動、ボランティア活動の手段として毎日どこでも開催される日常的な存在になってきました。インターネットの発達により放送局や新聞社と並んで 個人が社会にメッセージやコンテンツを発信できるのと同様に、ソーシャルネットワークサービスの発達とイベントビジネスの発展によって だれもが主催者としてイベントを企画制作することができ、価値観や志を共有すればだれでもそのイベントに主体的に参加できる時代になりました。

○ソーシャルイベント研究会のテーマは「新しいビジネスの創造」です

イベント学会は『イベントによる新しい時代の創造』をテーマに15年間にわたりさまざまな研究活動を展開してきましたが、今回新たに「ソーシャルイベント研究会」を設立することとしました。その趣旨は だれもが企画制作でき参加できる時代の イベントによる「新しいビジネスの創造」です。個人、法人を問わずイベント学会の会員が保有する商品やサービス、経験やノウハウなどのビジネス情報を共有し 会員間で流通させることで相互のイベントビジネスを発展させることがソーシャルイベント研究会の役割です。

「ソーシャルイベント」の定義はこれからですが とりあえず「だれもが企画制作でき参加できる公共的なイベント」を対象として活動をスタートすることといたします。また新しいビジネスについては、およそ世に存在するどんなビジネスでもイベントビジネスになるという考えに立っています。イベントを支えるインフラ系、イベントを構成するコンテンツ系、それらを結合したシステム系に分類されますが、イベント主催者が簡単に利用できる商品やサービス、経験やノウハウなどが野菜や魚のようにマーケットで日常的に流通してゆくことが重要だと考えています。

○ソーシャルイベント研究会は「ショーケース」と「イベント見本市」で構成されます

「新鮮で」「面白く」「安価な」イベントのネタ（インフラ、コンテンツ、システム系）を活発に流通させてゆくためにソーシャルイベント研究会では「ショーケース」と「イベント見本市」を運営します。従来は イベントのプロ と呼ばれる企業や個人がおもに取り扱ってきたビジネス情報を インターネット上の「ショーケース」に公開し リアルな会合でお互いの顔を見ながら商談・取引するのが「イベント見本市」です。研究会のメンバーだ

けが参加して「出荷・仕入できる市場」で安心、安全なビジネスを目指します。

○会員ならどなたでもソーシャルイベント研究会のメンバーになることができます

ソーシャルイベント研究会はイベント学会の交流サロンや研究会活動が母体になって設立される新しい活動ですからイベント学会の会員は無条件でソーシャルイベント研究会のメンバーになることができます。もちろん他の研究会との重複参加も可能です。

また日本イベント産業振興協会と連携して同協会の会員やイベント業務管理士にも参加を呼び掛けてまいります。なおイベント学会の非会員が新たにメンバーになるには まずイベント学会の会員になっていただくことが条件となります。

○毎月 定例会の会合（イベント見本市）を開催します

ソーシャルイベント研究会は月に一回 定例の「イベント見本市」を開催して以下のプログラムにより会員間のビジネス交流を図ります。

- ・ ソーシャルイベントの事例を研究発表する「ケーススタディ」
- ・ イベントのネタ（インフラ、コンテンツ、システム系）を商談・取引する「ネタメッセ」
- ・ 特定の公募物件などを想定して仮想・持ち込み提案をおこなう「勝手プロポーザル」
- ・ 懇親パーティ（自由参加、会費制）

○メンバー間で想定される個別活動の展開例

- ・ 研究ユニットによる研究発表（研究大会での口頭発表、研究助成エントリー）
- ・ ビジネスユニットによる研究テーマの事業化（アライアンス編成）

以上

2013. 9. 4

設立発起人

小林政則（イベント支援ネットワーク代表）